

日本材料強度学会誌 第52巻 3号

目 次

原 著 論 文

非破壊検査による長期使用したSS400溶接継手の破壊靱性評価川村文人, 和田雄基, 江原隆一郎.....	43
---	----

会 報

I. 本会業務運営について.....	53
II. 日本材料強度学会平成30年度総会及び学術講演会講演募集.....	54
III. 本会出版物案内.....	55
「延性—脆性遷移温度域での脆性破壊靱性標準試験法」 —日本学術振興会第129委員会基準—.....	55
「応力腐食割れ標準試験法」.....	55
「Innovative Testing and Estimation Methods of Hydrogen Embrittlement Under Sustained, Rising and Cyclic Loadings」.....	56

著 書 紹 介

「材料強度と破壊学—創造的発展と応用—」.....	56
---------------------------	----

ニ ュ ー ス

関連学協会開催案内.....	56
日本材料強度学会誌投稿規定.....	57
日本材料強度学会誌論文投稿カード.....	58
Strength, Fracture and Complexity, An International Journal への投稿案内.....	59
会員増強運動についてのご協力ご依頼.....	62

【Innovative Testing and Estimation Methods of Hydrogen Embrittlement Under Sustained, Rising and Cyclic Loadings】

日本学術振興会 129 委員会（強度と疲労委員会）が共同研究の成果をとりまとめ、刊行しました。きわめて好評を得ておりますので、希望者は、下記宛お申込み下さい。

著 者：日本学術振興会第 129 委員会編

申込先：日本材料強度学会（笹氣出版印刷株式会社 FAX 022-288-5551）

A5 判，活版印刷，総ページ数 110 頁

定 価：5,000 円（本体），送料 350 円

【著書紹介】

「材料強度と破壊学 —— 創造的發展と応用 ——」

日本学術振興会先端材料強度第 129 委員会編

申込先：笹氣出版印刷株式会社

FAX 022-288-5551

308 ページ

定価 5,000 円（本体）

材料の強度と破壊の研究においては戦略的ないし実用としての意義が重要である。破壊現象や機構の解明といった基本的な面と、実際の姿において実用条件下での破壊に対応した面との二つの面の存在を認識し、前者の研究と言えども後者への結びつきを念頭に置かねばならない。

他方、破壊の研究は古くて新しい問題とも言われているが、破壊のように複雑な問題解決のためには、如何なる概念（Concept）、方法論（Methodology）が必要であるかを十分に検討する必要がある。

編著者横堀武夫教授は材料強度学なる名称のもとに、従来の paradigm とは異なる概念・方法論・成果・意義を提出してきた。本書ではその後にトーマス・クーンの「科学革命の構造」なる科学哲学との出会いを機会に、創造的發展との関連において体系化を試みている。その道すがら破壊の確率過程論や、いわゆる破壊力学の誤解や盲点にも回答を与えている。

【ニュース】

関連学協会開催案内

第 53 回 X 線材料強度に関するシンポジウム

主 催：日本材料学会

協 賛：（予定）本会ほか 19 学協会

日 時：2019 年 7 月 11 日（木）、12 日（金）

場 所：エル・おおさか（大阪府立労働センター）

大阪市中央区北浜東 3-14